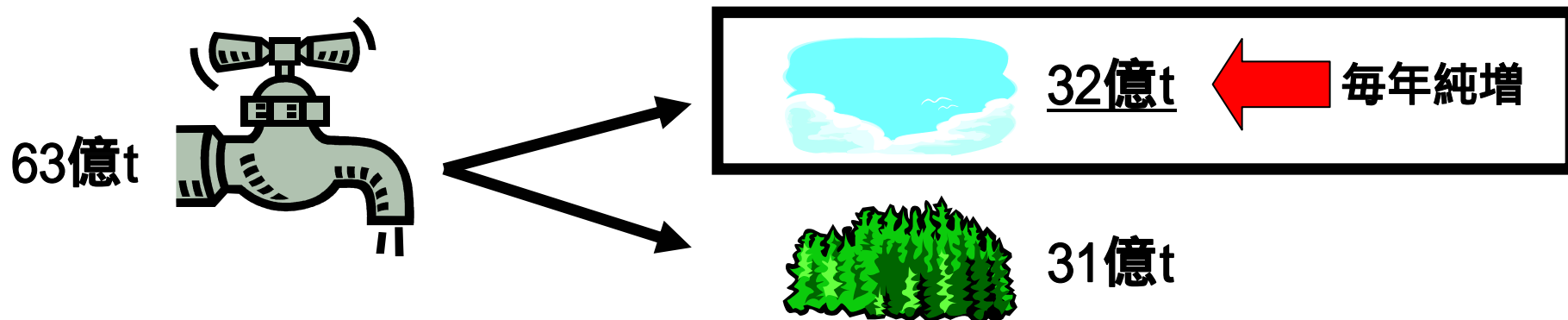


# 温暖化を止めるには、CO<sub>2</sub>濃度を安定化させる必要がある

- 二酸化炭素の大気中濃度を安定させるためには、地球全体で排出量と吸収量の均衡をとらなければならない
- 現在、二酸化炭素は年間63億トン排出されているものの、自然系に吸収されているのはわずか年間31億トンであり、**年32億トンずつ純増**している
- 今後、どれだけ早く、どのレベルに濃度を安定化させるかが争点となるが、あまり猶予はない



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

# 日本は温室効果ガスの排出を14%減らさなければならない

- 1997年に京都で生まれた京都議定書が本年2月に発効
- 先進国は、2008年～2012年の間に、温室効果ガスの排出量を1990年のレベルから全体で5%以上削減することを約束
- 京都議定書では、各国別に削減率が定められており、日本は-6%、EUは-8%、アメリカは-7%となっている
- 日本の2003年度の温室効果ガスの排出量は、基準年度(1990年度)を8%上回っている
- 日本が京都議定書の約束を守るためには、2008年～2012年までに温室効果ガスの排出量を14%削減する必要がある

アメリカは京都議定書を未批准



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

# 京都議定書の目標を達成するための手段にはいくつかある

- 様々な排出源対策(排出量を減らす)

- 吸収源の算入(植林する)

「吸収源」とは、「排出源」の反対語で、森林のことを指す

- 京都メカニズムの活用

共同実施(JI)

先進国間において排出量削減の共同プロジェクトを実施し、各国の寄与度に応じて削減量を配分する

クリーン開発メカニズム(CDM)

先進国が出資して開発途上国において排出量削減の共同プロジェクトを実施し、削減した分を先進国の削減量とする

排出量取引

先進国間で排出枠を売買する



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

# 政府は、「京都議定書目標達成計画」を策定

- 京都議定書の約束(1990年比6%削減)を確実に達成するための具体的裏付けのある対策の全体像を明らかにしたものとして、4月に「京都議定書目標達成計画」を策定
- 地球規模での温室効果ガスのさらなる長期的・継続的な排出削減を目指す
- 政府を挙げ、多様な政策手法を活用し、100種類を超える個々の対策・施策をパッケージにしている

## < 対策・施策例 >

風力や太陽光などの**新エネルギー**の普及促進

家庭やオフィスなどを含めた**省エネ機器**の普及

**燃料電池**をはじめとする各種対策技術の開発の推進

**吸収源**となる森林の整備



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

# 「京都議定書目標達成計画」は、まちづくり問題にも言及

- 京都議定書目標達成計画は、「省CO<sub>2</sub>型の地域・都市構造や社会経済システムの形成」についても言及
- 「脱温暖化社会」の構築に向けて、中長期的な観点から地域・都市構造や社会経済システムの転換に早期に着手することとされている

## < 項目例 >

省CO<sub>2</sub>型の都市デザイン (エネルギーの面的利用の促進等)

省CO<sub>2</sub>型の交通システムのデザイン (公共交通機関の利用促進等)

省CO<sub>2</sub>型物流体系の形成 (モーダルシフト等)

新エネルギーの面的導入やエネルギー融通の促進 (分散型新エネルギーのネットワーク構築等)



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%